

群馬県の財政状況



平成29年10月
群馬県総務部財政課



日本で最初の官営器械製糸工場[富岡製糸場]





目次

Section1. 県の概要、経済の状況

群馬県の人口と強い経済	3
群馬県の恵まれた自然条件	4
東北～九州、太平洋～日本海を結ぶ交通の結節点	5
群馬県に受け継がれてきた産業技術の発展	6
群馬県の産業構造	7
恵まれた立地条件を活かした産業活力の向上	8
群馬県の魅力あふれる観光資源	9
群馬のトリビア	10

Section2. 財政状況と行政改革の取り組み

平成29年度群馬県当初予算	13
平成29年度群馬県当初予算の重点施策	14
平成29年度一般会計当初予算(歳入)	15
平成29年度一般会計当初予算(歳出・性質別)	16
普通会計の決算収支	17
普通会計決算(歳入)の推移	18
県税決算の推移(普通会計)	19
普通会計決算(歳出・性質別)の推移	20
公債費及び投資的経費の推移	21
県債新規発行額と残高の推移	22
行政改革の取り組み	23

Section3. 主な財政指標の状況

財政健全化法に基づく財政指標の推移	25
将来負担比率と実質公債費比率(平成27年度決算)	26
財政指標の推移	27
プライマリーバランスの推移(決算ベース)	28

Section4. 公営企業・地方公社等について

公営企業会計の決算状況	30
地方三公社の決算状況(住宅供給公社)	31
出資法人の状況	32

Section5. 市場公募債発行計画

平成29年度市場公募債発行計画	34
お問い合わせ先	35

Section 1.

県の概要、経済の状況

- 人口規模は約200万人で中堅クラス。発達した交通網、安定した気候と災害への安心感、長い歴史で築かれた基盤技術などで、工場立地件数は全国トップクラス
- 本州のほぼ中央、首都東京から約100kmに位置しており、アクセスの便が良い
- 多彩で多様な農業が展開され、「首都圏の台所」と呼ばれる
- 温泉、自然、歴史遺産といった魅力あふれる観光資源が人々を惹きつける



群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

プロフィール

誕生日: 2月22日(魚座)

年齢: 7歳

モチーフ: ポニー

ゆるキャラグランプリ2014 第1位



[尾瀬国立公園]

国民的愛唱歌「夏の思い出」で全国に名を知られる国立公園です。





群馬県の人口と強い経済

■ 工場立地件数は常に全国トップクラスであり、強い経済が特徴

恵まれた立地環境、利便性の高さ、災害への安心感から、多くの企業が群馬県に進出しています。

工場立地件数 ➡ 56件

全国 第3位

(平成28年)

	H23年		H24年		H25年		H26年		H27年		H28年	
1位	兵庫県	56	北海道	75	茨城県	147	茨城県	237	茨城県	84	静岡県	74
2位	愛知県	43	静岡県	73	群馬県	128	群馬県	150	兵庫県	73	愛知県	68
3位	静岡県	37	群馬県	70	北海道	109	栃木県	138	群馬県	57	群馬県	56
4位	埼玉県	36	兵庫県	68	福岡県	96	静岡県	117	静岡県	55	兵庫県	56
5位	岐阜県	36	栃木県	61	栃木県	78	福岡県	100	愛知県	52	宮城県	48
8位	群馬県	33										

※H27年から太陽光発電施設が調査から除外されている。

人口 ➡ 196.7万人

全国 第18位

(平成28年10月1日)

生産年齢人口比率
➡ 59.1%

全国 第15位

(平成28年10月1日)

20年後(H42)の推計人口
➡ 1,787千人(減少率11.0%)

減少率が低い方から 全国 第18位

(平成25年3月推計)

有効求人倍率 ➡ 1.59

全国 第16位

(平成29年8月)

1人当たり県民所得
➡ 3,092千円

全国 第10位

(平成26年度)

年間製造品出荷額等
➡ 9兆504億円

全国 第12位

(平成27年)

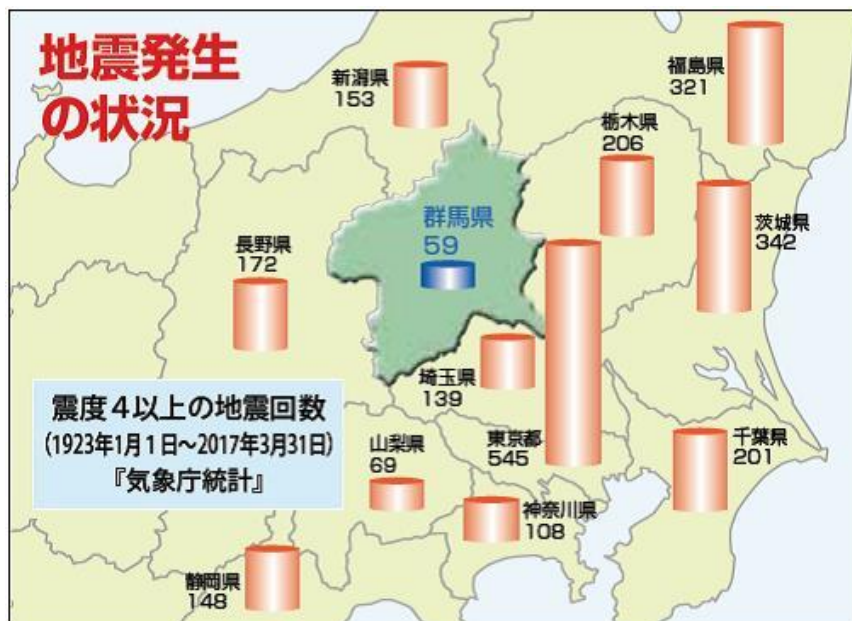


群馬県の恵まれた自然条件

- 関東一、地震が少ない県であり、地震災害のリスクが非常に低い
- 平均日照時間が全国で上位に位置するなど恵まれた気象条件を有し、自然災害が少ない

地震災害のリスク

群馬県は、地震や水害などの自然災害が比較的少なく、工場や物流拠点施設をはじめとする様々な産業施設の立地に有利な条件を備えています。



恵まれた日照時間

群馬県は、日照時間の長さが全国第3位と上位に位置しています。降雪量も平野部では比較的少なく、恵まれた気象条件を有しています。

出典：総務省統計局刊行
「統計でみる都道府県のすがた2017」

日照時間年平年値 全国3位

1位 山梨県
2位 埼玉県
3位 群馬県



(出典) 気象庁ホームページ



東北～九州、太平洋～日本海を結ぶ交通の結節点

- 本州のほぼ中央、首都東京から約100kmに位置しており、アクセスが良いのが群馬県の魅力

北陸新幹線
2022年度 福井まで
延伸予定

東京へのアクセス良好

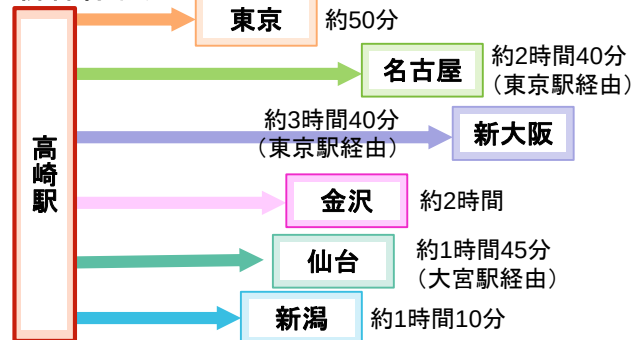
- 関越、上信越、北関東、東北自動車道により、東日本と西日本、太平洋側と日本海側を結ぶ高速交通網が整備されています。

高速道路利用



- 上越新幹線と北陸新幹線が走っており、鉄道交通の結節点である高崎駅を中心に各方面へのアクセスが便利です。

新幹線利用





群馬県に受け継がれてきた産業技術の発展

■ 豊富な資源と地域性から成り立つ伝統ある技術の、現在に至るまでの継承と発展

受け継がれる製造業の系譜

- 利根川の存在や交通網の結節点という優良な地域条件を背景に、各所の技術や人材が集中し製造業が発展
- また、生糸産業に欠かせない機織機が、精密機器として群馬県内で独自に開発されるなど、技術の精密化も発展
- さらに、豊富な電力を確保できる環境が、中島飛行機(現SUBARU)をはじめとする日本代表企業を創出
- その後、中島飛行機を含め、軍需工業が発達。戦後はそれらの技術を転用し、輸送機器・業務用機器などの製造業が台頭
- 時代を超えて受け継がれる技術が、現在の「SUBARU」や「サンデン」の基盤となって表れている



地理的優位性と技術の蓄積による産業の集積



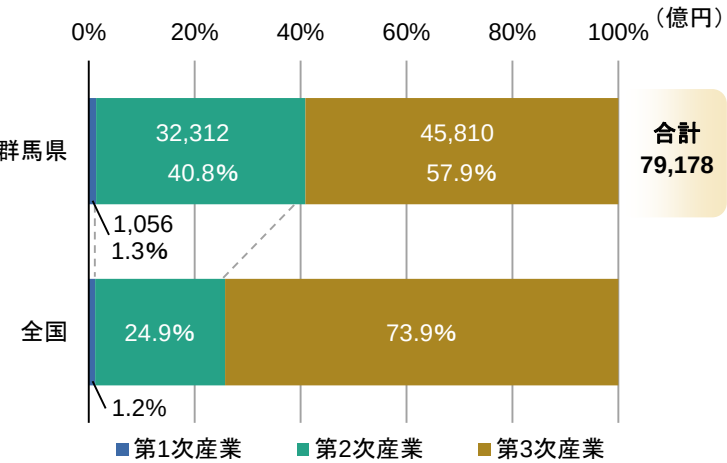
輸送機器	1 SUBARU	3 ミツバ	5 カルソニックカンセイ
	2 日野自動車	4 日本発条	6 ボッシュ
化学	7 信越化学工業	8 協和発酵キリン	9 関東電化工業
食料品	10 山崎パン	12 ブルドックソース	14 ダノンジャパン
	11 森永製菓	13 ハーゲンダッツ	15 日本ケロッグ
業務用機器	16 キヤノン電子	17 サンデン	
飲料・飼料	18 明治	19 サッポロビール	20 サントリー



群馬県の産業構造

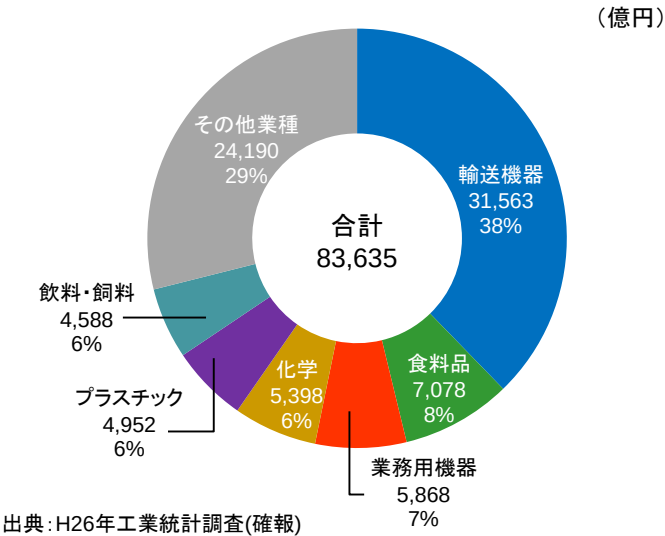
- 発達した交通網、安定した気候、自然災害の少なさ、長い歴史で築かれた基盤技術などで、ものづくり産業が発展
- 豊富な水資源や首都圏に位置するなど有利な立地条件を活かし、「首都圏の台所」として、多彩で多様な農業が展開

産業別名目県内(国内)総生産



出典：群馬県県民経済計算 (H26年度確報)
及び内閣府国民経済計算 (H26年度確報)

製造品出荷額等



出典：H26年工業統計調査(確報)

主な県内立地企業

業 種	企業名
輸送機器	SUBARU
	日野自動車
	ミツバ
	日本発条
	カルソニックカンセイ
食料品	ボッシュ
	山崎製パン
	森永製菓
	ブルドックソース
	ハーゲンダッツ
化学	ダノンジャパン
	日本ケロッグ
	信越化学工業
業務用機器	協和発酵キリン
	キャノン電子
飲料・飼料	サンデン
	明治
	サッポロビール
	サントリー

農業生産量全国順位(平成27年)

順位	品 目	生産量(占有率)
1位	こんにゃくいも	56,500 t (92%)
	キャベツ	243,900 t (17%)
2位	ふき	1,410 t (12%)
	きゅうり	50,400 t (9%)
	うめ	5,380 t (5%)
	レタス	49,100 t (9%)
3位	ほうれんそう	21,600 t (9%)
	なす	21,700 t (7%)
	ちんげんさい	3,260 t (7%)

心にググっと
00
ぐんま
出典：H27年農林水産統計

製造品出荷額等全国1位の製品

製品	出荷額
プラスチック(信越化学工業、テクノ・エスアイ など)	1,567億円
コーヒー飲料(日本キャンパック、サントリー など)	909億円
清涼飲料(カルピス、明治など)	764億円
乗用車ボデー(東亜工業、エイチワン など)	673億円
即席めん類(東洋水産、太平食品工業 など)	608億円
アイスクリーム(明治、タカナシ乳業 など)	525億円

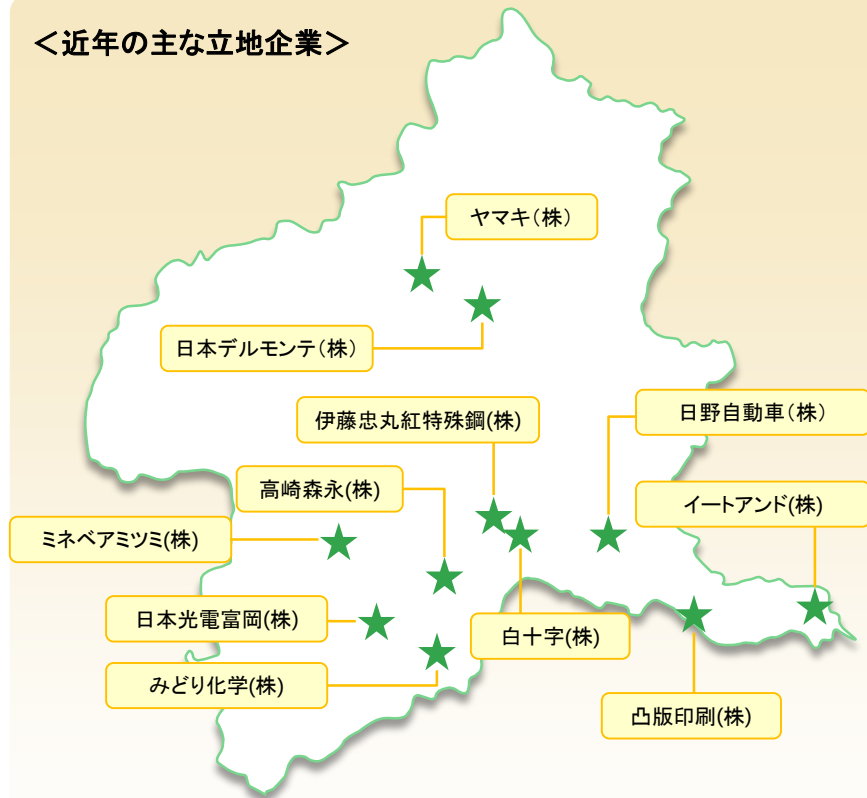
出典：H26年工業統計調査



恵まれた立地条件を活かした産業活力の向上

企業立地(民間企業から選ばれる群馬県)

<近年の主な立地企業>



- 「事業継続体制」を意識した民間企業の立地が加速
- 民間企業に選ばれる理由
「災害リスクの低さ」、「東京圏との同時被災の回避」、
「東西南北への良好なアクセス」、「東京圏との距離」 など
- データセンター、物流のバックアップ拠点として貢献

コンベンション施設整備計画



完成イメージ



- 高崎駅東口から約1kmに位置する旧高崎競馬場の跡地(約10.8ha)の有効な活用策として、コンベンション施設の整備を計画
- コンベンションの開催により交流人口の増加や大きな経済効果がもたらされる。人口減少社会が進む中、「中長期的に県経済を牽引する社会インフラ」となる
- 2020年度の開所を目指す

群馬県コンベンション施設整備基本計画(改訂版)

- 施設規模: 多目的展示施設 10,000㎡、会議施設 3,400㎡
- 概算事業費: 約280億円
- 想定年間来場者数: 約96万人
- 想定運営収支: 収入 約5億円、支出 約4億円
- 経済効果: 年間約128億円



群馬県の魅力あふれる観光資源

- 温泉、自然、歴史遺産といった魅力あふれる豊富な観光資源が人々を惹きつける

人気が高い群馬県ブランドの温泉

- 群馬県の温泉は泉質も施設も種類が豊富です
- 全国的にも人気が高く、群馬県の観光の目玉として抜群の集客力を誇り、大きな経済効果をもたらしています

第30回にっぽんの温泉100選

総合ランキング(抜粋)

総合順位	温泉地名	所在地
1	草津	群馬県
2	別府八湯	大分県
3	指宿	鹿児島県
4	湯布院	大分県
5	下呂	岐阜県
14	伊香保	群馬県
18	万座	群馬県
21	水上	群馬県
34	四万	群馬県

出典：(株)観光経済新聞社

みんなで選ぶ第9回温泉大賞

温泉番付 東(抜粋)

総合順位	温泉地名	所在地
横綱	草津	群馬県
大関	箱根	神奈川県
関脇	登別	北海道
小結	伊香保	群馬県
前頭	万座	群馬県
前頭	四万	群馬県
前頭	水上	群馬県
前頭	宝川	群馬県

出典：BIGLOBEによるサイト上でのWebアンケート調査(アンケート期間は2016年12月12日～2017年1月31日)



草津温泉



伊香保温泉



水上温泉

群馬県の自然

- 群馬県は山林が県土の約3分の2を占め、豊かな自然にあふれています
- 県内では川、滝、湖沼、湧水など、さまざまな水の形に出会うことができます。山々は古く『万葉集』にも詠みこまれ、深田久弥著の『日本百名山』では県内から11の山が選ばれています
- また、日本を代表する美しい風景と貴重な生態系を有する尾瀬は、全域が国立公園の特別地域であり、その核心部は特別保護地区として、国の特別天然記念物に指定されています



左：わたらせ渓谷鐵道
右：妙義山



尾瀬



赤城山

群馬県の歴史遺産

- 富岡製糸場は、明治5(1872)年に日本初の官営器械製糸工場として設立されました。平成26年に、世界遺産に登録されるとともに、国宝にもなりました
- 古墳時代、ヤマト政権の東国支配の拠点として繁栄していた上毛野。群馬県には1万基以上の古墳があるといわれており、古墳の数は全国で有数。太田市「天神山古墳」は、全長210mで、東日本で最大の方後円墳



富岡製糸場



天神山古墳



群馬のトリビア①

■ 日本一・世界一

県立つつじが岡公園	樹齢800年を超えるヤマツツジをはじめ約1万株のツツジが美しく咲き誇る名勝。アメリカのツツジ・ジャクナゲ協会会長デビット・リーチ氏が「世界一」と賞賛。
利根川	みなかみ町の大水上山(おおみなかみやま)を源流とし流域面積約16,840km ² で日本一。
ぐんま昆虫の森	敷地面積が45haで体験型昆虫施設としては日本最大。
草津温泉	「日本三名泉」「日本三大湯」。自噴湧出量が毎分32,300ℓで日本一。
宝川温泉の露天風呂	4つの露天風呂の面積は合計約470畳(約235坪)で日本一の大きさ。
草津温泉西の河原露天風呂	面積が約150坪(500m ²)で単独の露天風呂の大きさで日本最大級。
こんにやく	こんにやくいもの作付面積と収穫量は、群馬県が全国の90%以上で日本一。
夏秋キャベツ	嬭恋村を中心に栽培が盛んで、日本一の収穫量。
繭と生糸	群馬県は繭の生産量、生糸の生産量、養蚕農家戸数が日本一。
鮎	1年で世代交代する鮎。県水産試験場で生産している養殖鮎は、平成27年で46回世代交代を行っており、日本一。
荒船風穴(史跡荒船・東谷風穴蚕種貯蔵所跡)	下仁田町にあり、明治38年から大正にかけて建設された天然の冷風を利用した蚕種(カイコの卵)貯蔵施設で、貯蔵能力は種紙110万枚で日本一。
群馬県食肉卸売市場	群馬県食肉卸売市場は小動物(豚)のと畜許可頭数が1日当たり3,000頭で、日本一。また、EUへの輸出が許可された施設としては日本初。
アイスクリーム出荷額	アイスクリームの出荷額は日本一(平成26年工業統計調査)。
コーヒー飲料出荷額	コーヒー飲料の出荷額は日本一(平成26年工業統計調査)。
清涼飲料水出荷額	清涼飲料水の出荷額は日本一(平成26年工業統計調査)。
空洞コンクリートブロック出荷額	空洞コンクリートブロックの出荷額は日本一(平成26年工業統計調査)。
小型ステープラー	マックス社が生産する小型ステープラーは国内でのシェア75%。
ヤマダ電機	家電量販店として年間売上高日本一。店舗数でも家電量販店トップ。
高崎だるま	高崎だるまは年間約90万個を製造で日本一。
創作こけし	創作こけしのシェアは日本一。
埴輪	国宝・重要文化財に指定されている埴輪53件のうち、群馬県出土の物は19件あり、日本一の数。
史跡上野国分寺七重塔	国分寺の塔として日本最大級の推定高60.5mの七重塔が建てられていた。
天神山古墳	太田市にある「天神山古墳」は、全長が210mで東日本で最大の前方後円墳。
土合駅	ホームと駅舎の間に日本一の階段数の486段の階段がある「日本一のモグラ駅」。
利根川・江戸川サイクリングロード	全長約170km。川沿いでは日本一長いサイクリングロードで、群馬県はその出発点。
メロディーライン設置数	県内には10カ所設置されており、日本一の数。
上毛かるた	累計で約145万組発行、郷土かるたの中で日本一。
フランソワ・ポンボン所蔵数	館林美術館が所蔵する「フランソワ・ポンボン」の作品・資料コレクションの数は全101点で、日本一。
高崎市内の山車数	高崎市内にある山車の保有数は38台(江戸型)で、日本一の数。

ぐんま天文台	公開天文台における夜間観望会参加者数は国内トップ。
県立赤城ふれあいの森木製ローラーすべり台	全長380mで木製ローラーすべり台としては日本一の長さ。
緑の少年団の団員数	平成26年現在、61,646名で日本一の数。また、県内の全小中学校に緑の少年団が設置されているのは群馬県だけ。
公営電気事業者の発電所数	群馬県企業局には、発電所が36カ所(水力32、火力1、風力1、太陽光2)あり、公営電気事業者(地方公共団体が経営する電気事業者)として日本一の数で、供給電力量も日本一。
自動車保有台数	人口に対する自動車の保有台数は日本一。
免許保有率	人口に対する自動車運転免許を保有している割合が日本一。
下久保ダム	堤体の長さが605mで、重力式コンクリートダムの中で日本一の長さ。
丸沼ダム	高さが32.1mで、コンクリートパットレスダムの中で日本一の高さ。

■ 日本初・世界初

尾瀬	「ごみ持ち帰り運動」が尾瀬で初めて行われた。
赤谷プロジェクト	生物多様性の復元と持続的な地域づくりのため、地域住民で組織する赤谷プロジェクト地域協議会、林野庁関東森林管理局、日本自然保護協会の3者が協働して、国有林を管理する日本初の取り組み。
伊香保温泉	温泉まんじゅう発祥の地。また、伊香保温泉の石段(365段)は、金比羅宮(香川県1,368段)、立石寺(山寺)(山形県1,015段)と並び「日本三大石段」。
ヤマメの人工ふ化	昭和32年に、嬭恋村の養魚家が、日本で初めてヤマメの人工授精・ふ化に成功。
森喜作	桐生出身の農学博士「森喜作」氏が、昭和17年に純粋培養菌種駒法(種駒栽培)を開発し、世界で初めてしいたけの人工栽培に成功。
富岡製糸場	日本初の本格的な模範製糸工場として操業。世界遺産。また、産業遺産としては、国内初の国宝。
新町紡績所	日本で最初に官営で操業した屑糸紡績工場。
中小坂鉄山	下仁田町にあった鉄山で、江戸時代から製鉄が行われ、明治7年に民間資本で操業を開始した後、明治11年から17年までの間、日本初の官営の鉄山となった。
わくわく自販機ミュージアム	日本自動販売機工業会が日本で初めて開設した自動販売機をPRする常設施設。
恐竜の足跡	神流町の連岩(さざなみいわ)の化石にあるくぼみが、研究者によって、日本で初めて恐竜の化石に認定された。
岩宿遺跡	日本で最初に発見された旧石器時代の遺跡。
碓氷峠	信越本線の横川〜軽井沢間は、最大66.7パーミル、標高差553mの急勾配のため、レールの間に歯車のレールを敷設し、歯車を機関車の歯車と噛みあわせて運行する「アプト式」により明治26年に開通。明治45年には国有鉄道幹線では最初に電化された。平成9年の長野新幹線開通を機に廃線。
群馬交響楽団	昭和20年創設の「高崎市民オーケストラ」を前身とし、「群馬フィルハーモニーオーケストラ」と改称後、昭和22年にプロとなり、昭和38年に群馬交響楽団と改称された。昭和30年に群響がモデルの映画「ここに泉あり」が公開されて注目を集める。また、県内の小中学生にオーケストラの演奏を身近に感じる機会として開催されている移動音楽教室は、昭和22年から始まり、延べ600万人以上の児童・生徒が鑑賞している。
上泉伊勢守信綱	剣術の新陰流を創始したほか、袋竹刀を発明。
中学生まで医療費無料	所得制限や自己負担なく、中学校卒業まで医療費が無料となる制度を、全国に先駆けて平成21年10月から群馬県が実施。

■ 概要 ■ 自然 ■ 温泉 ■ 食 ■ 農業 ■ 産業 ■ 歴史 ■ 文化 ■ 風土



群馬のトリビア②

■ 日本最古

磯部温泉	古地図に日本最古の温泉マークがしるされた「温泉記号発祥の地」。
四万温泉	国民保養温泉地第一号に指定。「積善館」は現存する日本最古の湯宿。
神津牧場	明治20年(1887)、日本で最初の洋式の牧場として開設。
上野三碑 (山上碑、多胡碑、金井沢碑)	山上碑は完全な形で現存する石碑としては日本最古。金井沢碑は「群馬」という文字が使われた県内最古の例。多胡碑は日本三古碑。平成27年9月、世界記憶遺産の国内候補として決定。
デキ1 デキ3	営業線を走る日本最古の電気機関車。
安政の遠足	江戸時代、安中藩主が藩士の鍛錬のため徒歩競争させた。これが日本のマラソンの発祥とされる。

■ 日本で唯一

上野村のシオジ林	上野村楢原にあるシオジの原生林は、シオジ林としては日本で唯一、天然記念物に指定されている
アザレアコレクション	ぐんまフラワーパークの「アザレアコレクション」は、世界的にも貴重なコレクションとして評価されている。
ウクレレ	前橋市の三ツ葉楽器株式会社は、国内で唯一ウクレレを量産。
ダノンジャパン(株)製林工場	館林市にある「ダノンジャパン(株)製林工場」は、国内で唯一同社の製品を製造する工場。
日本ケロッグ(合同)高崎工場	高崎市にある「日本ケロッグ(合同)高崎工場」は、国内で唯一同社の製品を製造する工場。
重粒子線がん治療施設	総合病院に併設された重粒子線治療施設は群馬大学医学部附属病院(前橋市)のみ。
スバル(富士重工業株)	「富士重工業株群馬製作所」では「スバル」ブランドで自動車を生産。世界でも数少ない「水平対向エンジン」を搭載し、群馬から日本国内、さらに全世界へ輸出。
ヤマト発動機(株)	太田市の「ヤマト発動機(株)」は、ボートレース用のモーター(エンジン)とボートを国内で唯一生産。
「はやぶさ」の回収カプセル	富岡市の宇宙関連機器の総合メーカー「株式会社エアロスペース富岡事業所」は、小惑星探査機「はやぶさ」、「はやぶさ2」の回収カプセルを設計・開発。
AED	富岡市にある医療用電子機器メーカー「日本光電工業株富岡工場」は、AED(自動体外式除細動器)を国内で唯一製造。
自然史博物館	日本で唯一カマサウルスの実物の全身骨格を展示。ブラキオサウルスの全身骨格復元模型の展示や、トリケラトプスの実物骨格を展示しているボーンベッドも、日本で唯一。また、館内のブナ林のジオラマは高さ日本一のほか、日本に数点しかないダーウィンの手紙を日本で初めて公開。
県道9号線	渡良瀬遊水地の西側を走る主要地方道9号佐野古河線は、群馬、栃木、埼玉、茨城4つの県をまたぐ日本で唯一の県道。
上三原田歌舞伎舞台	渋川市にあり、ガンドウ機構(三方の板壁を外側に倒して舞台面を2倍以上の広さにする)、遠見機構(舞台の奥に遠見と呼ぶ背景をつけ、奥行きを深く見せる)、柱立廻式回転機構(平舞台いっぽいの回転部を回転させる)、セリヒキ機構(二重と呼ぶ小舞台を天井・奈落の双方からせり上げ、せり下ろす)という全国に例のない4つの機構があり、その操作技術とともに国の重要有形民俗文化財に指定されている。
ゲルニカ(タピスリー)	県立近代美術館が所蔵するゲルニカ(タピスリー)は、ピカソ本人が監修し、3点のみ制作された貴重な美術品。日本では同館のみが所蔵。

■ 日本三大・世界三大

妙義山	耶馬溪(大分県)、寒霞溪(かんかけい)(香川県)と並び、「日本三大奇勝」。「日本近代登山の父」ウォルター・ウェストンが妙義の山岳ガイド根本清蔵に登山技術を教えたことから「近代登山発祥の地」ともいわれる。
谷川岳	日本百名山で、剏岳(富山県)、穂高岳(長野県・岐阜県)と並んで「日本三大岩場」。
川中温泉	美肌効果があると言われ、龍神温泉(和歌山県)、湯の川温泉(島根県)とともに、「日本三大美人の湯」。
太田焼きそば	横手やきそば(秋田県)、富士宮やきそば(静岡県)とともに「日本三大焼きそば」。
水沢うどん	稲庭うどん(秋田県)、讃岐うどん(香川県)と並んで「日本三大うどん」。
伊勢崎市境島村地区	世界遺産「田島弥平旧宅」がある伊勢崎市境島村地区は、かつて福島県信達地方、長野県上田地方とともに「日本三大蚕種製造地帯」といわれ、蚕種の生産が盛んだった。
貫前神社	531年創建と伝えられ、927年の『延喜式』の神名帳に掲載されている由緒ある神社。総門よりも社殿が低いところにある「下り宮」で、鵜戸神宮(宮崎県)、草部吉見神社(熊本県)と並んで「三下り宮」。
曹源寺のさざえ堂	太田市にあり、会津さざえ堂(福島県会津若松市)、平等山成身院百体観音堂(埼玉県本庄市)とともに、「三大さざえ堂」。(さざえ堂とは、螺旋状の回廊を有する特異な建築物で、江戸時代に各地で建設された)
碓氷関所	安中市にある旧中山道の関所。箱根関所(神奈川県)、新居関所(静岡県)とともに「日本三大関所」。なお「日本四大関所」の場合は、三大関所に福島関所(長野県)が加わる。
関孝和	円周率や球の体積の計算方法を考え出し、ニュートン、ライプニッツと並ぶ世界三大数学者。
土師の辻	藤岡市の土師神社にあり、石川県の羽咋神社、大阪府の住吉神社とともに「日本三辻」。(相撲辻とは屋外で行った相撲の土俵のこと)
船津伝次平	幕末から明治にかけて活躍した農業指導者で、奈良県の中村直三、香川県の奈良専三とともに「日本三老農」、群馬をはじめ我が国の農業技術改良や普及に尽力した。
高山彦九郎	高山彦九郎は、江戸時代後期の尊皇思想家で、林子平・蒲生君平とともに「寛政の三奇人」。幕末の尊皇運動に大きな影響を与えた。

■ 貴重・希少

沼田の河岸段丘	利根川、片品川、薄根川が沼田盆地を浸食して形成され、6段目の段丘が形成されており、高校の教科書の河岸段丘を説明するページには必ずといっていいほど写真が掲載されている。
チャツボミゴケ	硫黄泉や硫化金属鉱山付近の流水中や湿岩に生育するコケで、北海道から九州にかけて分布。中之条町六合地区の元山にあるチャツボミゴケ公園は、鉄鉱石の露天掘り跡に強酸性の湯が湧出し、チャツボミゴケが群生している。広範囲に生育しているのは珍しい。
満徳寺	太田市にあり、江戸時代中頃に江戸幕府の公認を受けた、世界に二つしかない縁切寺の一つ。もう一つは鎌倉の東慶寺。「駆け込み寺」とも呼ばれ、江戸時代、離婚を求めて駆け込んだ妻を救済し、夫との離婚を達成させてくれた厄寺。
平坦地にある3県境	東武日光線柳生駅の近くには群馬、栃木、埼玉の3県の県境が平地の水田内にある珍しい地点がある。

■ 概要 ■ 自然 ■ 温泉 ■ 食 ■ 農業 ■ 産業 ■ 歴史 ■ 文化 ■ 風土

Section 2.

財政状況と行政改革の取り組み

- 昭和32年以降、60年間連続で黒字決算となり、安定した財政運営を実施
- 県債残高は、実質的な地方交付税である臨時財政対策債が増加しているが、その他の県債は着実に減少
- 人口千人当たりの職員数（一般行政部門）は、少ない方から数えて全国2位の2.01人
※東京都及び政令指定都市のある15道府県を除く（平成28年4月1日現在）



[草津温泉]

自噴する温泉としては、日本で一番の湧出量を誇ります。街の中心にある湯畑は草津のシンボルとなっています。





平成29年度群馬県当初予算

基本方針

- 第15次総合計画『はばたけ群馬プランⅡ』（平成28～31年度）に掲げる3つの基本目標「地域を支え、経済・社会活動を支える人づくり」、「誰もが安全で安心できる暮らしづくり」、「恵まれた立地条件を活かした産業活力の向上・社会基盤づくり」を推進するための施策を着実に推進
- 人づくりをはじめとした未来への投資を着実に進め、群馬らしさを活かした豊かな社会の実現に向けた『ぐんまの未来創生予算』を編成

当初予算の3つの柱

1 地域を支え、経済・社会活動を支える人づくり

2 誰もが安全で安心できる暮らしづくり

3 産業活力の向上・社会基盤づくり

特徴的な施策

ぐんま少人数クラスプロジェクト

[予算額:14.2億円]



- 児童生徒の基礎学力の向上を目指すため、県独自の少人数学習編制を継続実施するとともに、県独自に英語の専科教員（県内10人）を新たに配置。
- さくらプラン 小学校1・2年 30人学級
小学校3・4年 35人学級
- わかばプラン 中学校1年 35人学級

子ども医療費の無料化

[予算額:40.6億円]



- 通院・入院ともに、中学校卒業までの医療費を無料化（自己負担分を県と市町村で全額補助）
- 所得制限なし
- H21.10月から全国に先駆け県内全市町村で実施

交流・移住・定住の促進

[予算額:11.5億円]



- 新たな人の流れを生み出し、県内産業のさらなる発展や若者・女性の雇用を創出するため、コンベンション施設整備を推進
- 首都圏等の大学生のU・Iターン就職を支援する「Gターン全力応援」や、移住相談等の窓口となる「ぐんま暮らし支援センター（有楽町）」などにより、本県への移住・定住を促進



平成29年度群馬県当初予算の重点施策

1 次代を担う子どもたちのための施策の充実

本県の未来を支える子どもたちのための施策を充実。

- ・新たに、定時制・通信制高校へスクールカウンセラーを、小学校へ英語教育アドバイザー教員を配置する。
- ・様々な理由により学習機会に恵まれない子どもたちの学習支援を拡充するほか、子どもの居場所づくりの充実に取り組む。

<主な事業>

- (新規) 定時制・通信制高校へのスクールカウンセラーの配置
- (新規) 小学校への英語教育アドバイザー教員の配置
- (一部新規) 子どもの生活・学習支援
- (新規) 高校中退者訪問支援
- (一部新規) 青少年自立・再学習支援
- (新規) 子どもの居場所の充実(子ども食堂の立ち上げ支援等)
- 新高校整備(富岡・甘楽・吾妻)

2 障害のある子どもたちの教育環境の整備

障害のある子どもたちが身近な地域で安心して教育を受けられる環境を整備。

- ・重複障害児の早期受入れと特別支援学校高等部未整備地域の解消に取り組む。
- ・沼田、館林の特別支援学校の整備を進めるほか、桐生市立特別支援学校を県立移管する。
- ・新たに、二葉・二葉高等特別支援学校へスクールバスを導入する。

<主な事業>

- 伊勢崎特別支援学校での重複障害児童受入れ
(太田高等特別支援学校及び伊勢崎高等特別支援学校でもH30.4月から重複障害のある生徒を受入れられるよう準備を進める)
- 沼田特別支援学校整備
(藤岡、富岡、吾妻の各地域も含め、H30.4月から生徒の受入れが開始できるよう準備を進める)
- 館林特別支援学校改築
- 桐生市立特別支援学校の県立移管
- (新規) 二葉・二葉高等特別支援学校スクールバス導入

3 群馬の魅力を活かしたイメージアップと誘客促進

交流人口の増加につなげるため、県内の山々や温泉、東国文化や古墳など、群馬の優れた魅力を活かした取組を推進。

- ・「東国文化＝群馬」を県内外に発信し、定着を図る。
- ・上野三碑の「世界の記憶」への登録を推進し、価値を発信する。
- ・稜線トレイルの整備を進めるとともに、本県の山々の魅力をPRする。
- ・これらにより、本県のイメージアップを図りつつ、県域DMOと連携しながら、観光誘客に取り組む。

<主な事業>

- (一部新規) 東国文化周知
- (一部新規) 上野三碑世界記憶遺産登録推進・発信事業
- (新規) 歴史博物館グランドオープン
- 古墳情報発信
- (一部新規) 稜線トレイル活用推進
- (新規) 県境稜線登山道再整備
- (拡充) 魅力ある観光地づくり推進(山や歴史を活かした観光誘客等)

4 群馬の強みを活かした仕事づくりと就労支援

群馬の強みを活かした仕事づくりを進め、雇用の場の確保につなげるほか、誰もが活躍できるよう、就労支援に取り組む。

- ・拠点性を活かしたコンベンション整備を着実に進めて、若者や女性などの雇用の場を創出するほか、県内企業の関連産業への参入を支援する。
- ・若者や女性、高齢者や障害者など、誰もが活躍できる就労の支援に取り組む。

<主な事業>

- コンベンション施設整備推進、コンベンション誘客推進
- (一部新規) コンベンション関連産業参入支援
- 若者就職支援(ジョブカフェぐんま、Gターン全力応援)
- 働く女性支援
- シニア就業支援センター運営(ジョブカフェぐんまへの一元化)
- (一部新規) 障害者雇用促進強化対策
- (新規) 精神障害者の就労移行支援の推進
- (一部新規) 企業誘致推進補助金



平成29年度一般会計当初予算(歳入)

- 県税は、税制改正の影響や、昨年の円高などによる企業収益の落ち込みにより法人事業税の減少が見込まれ、140億円の減額。
- 国の地方財政対策により、地方交付税は106億円の減、臨時財政対策債は65億円の増。
- 税収減に見合う地方交付税の増額が見込まれないことから、減収補てん債を計上し、必要な歳入予算を確保。

区分		H29年度 当初予算額(億円)	H28年度 当初予算額(億円)	前年度比 (%)
県税		2,350	2,490	94.4
地方消費税清算金		735	688	106.8
地方譲与税		339	320	105.9
地方交付税		1,150	1,256	91.6
国庫支出金		839	810	103.5
県債		1,185	921	128.7
	臨時財政対策債	460	395	116.5
	減収補てん債	156	0	皆増
	その他の県債	569	526	108.2
基金繰入金		233	320	72.8
その他		415	411	101.0
合計		7,246	7,216	100.4
内訳	自主財源	3,715	3,892	95.4
	依存財源	3,531	3,324	106.2

※ 臨時財政対策債は、地方交付税の不足を補うものとして国から地方団体に発行額が割り当てられ、償還費は後年度の地方交付税に加算される地方債(借入)で、実質的な地方交付税とされているものです。また、減収補てん債は、県税収入の減に見合った地方交付税の増額が見込めないことから、その代替として当初予算で計上したものです(後年度、償還費の75%が地方交付税で措置)

※ 依存財源は地方譲与税、地方特例交付金、地方交付税、交通安全対策特別交付金、国庫支出金及び県債です

※ 自主財源は依存財源以外の財源です



平成29年度一般会計当初予算(歳出・性質別)

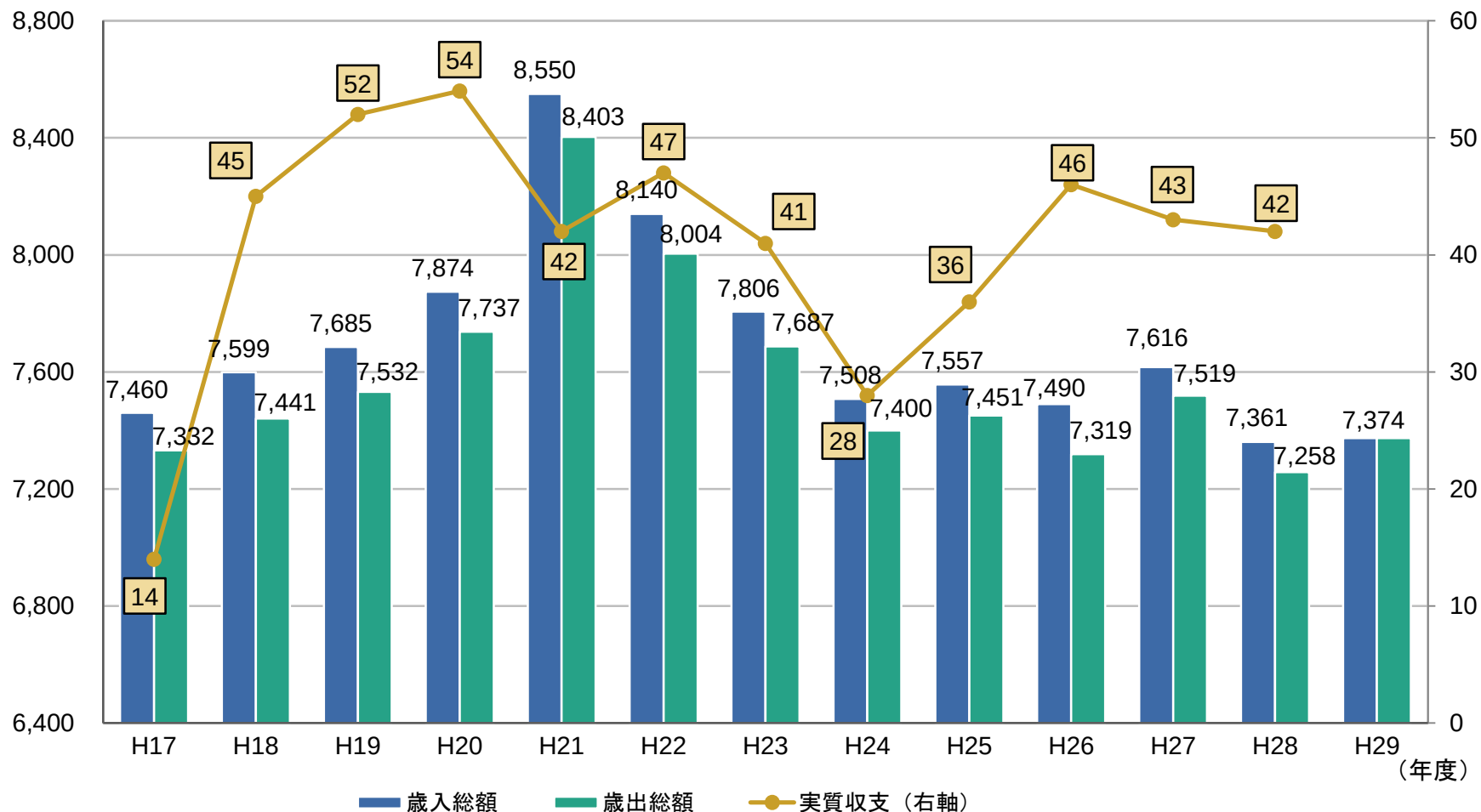
- H29年度当初予算規模は、前年度対比0.4%の増
- 「ぐんまの未来創生予算」として、人づくりをはじめとした未来への投資を着実に進め、群馬らしさを活かした豊かな社会の実現に向けた施策に取り組む

区分	H29年度 当初予算額(億円)	H28年度 当初予算額(億円)	前年度比 (%)
義務的経費	3,634	3,660	99.3
人件費	2,253	2,280	98.8
退職手当	216	226	95.5
退職手当除き	2,037	2,054	99.2
扶助費	319	306	104.2
公債費	1,062	1,074	98.9
投資的経費	1,066	1,070	99.7
補助公共事業	235	237	99.4
単独公共事業	588	599	98.2
その他の建設事業	242	234	103.6
補助費等	2,049	2,011	101.9
その他	497	475	104.6
合計	7,246	7,216	100.4
うち社会保障関係費	972	922	105.4



普通会計の決算収支

- 昭和32年以降、60年間連続で黒字決算となり、安定した財政運営を実施
- H28年度は、H26.2月に発生した大雪による農業被害への対策の完了などにより、歳入歳出とも前年度を下回った。実質収支は42億円の黒字（億円）

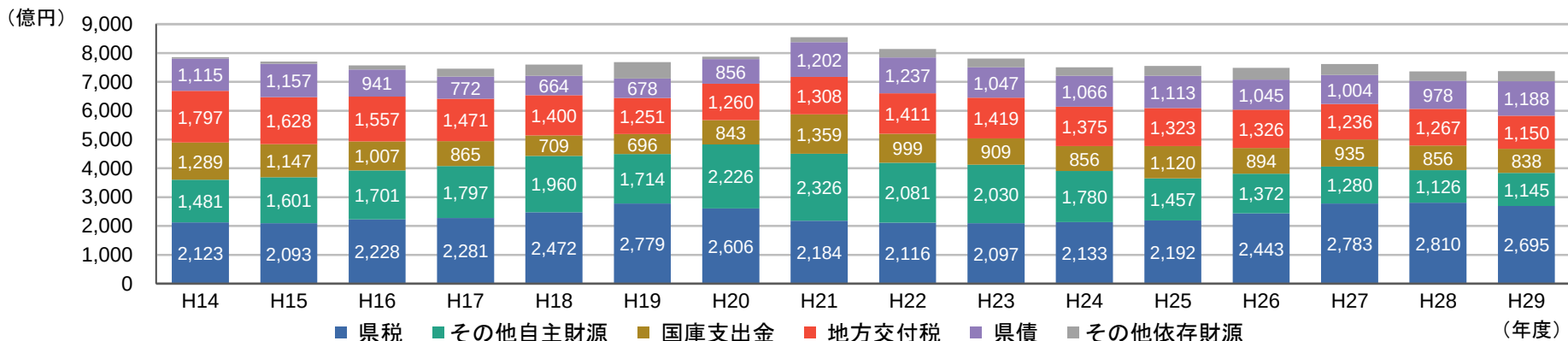


※H28年度まで決算ベース、H29年度は当初予算ベース



普通会計決算(歳入)の推移

- H29年度の県税収入(2,695億円)は、税制改正や昨年の円高の影響もあり、前年度より減額となるものの、リーマンショック前の水準である2,700億円程度を確保
- 県債については、国の地方財政対策により地方交付税が減額となったことから、減収補てん債を計上したため増額



歳入決算額(億円)	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
歳入総額	7,856	7,705	7,571	7,460	7,599	7,685	7,874	8,550	8,140	7,806	7,508	7,557	7,490	7,616	7,361	7,374
自主財源	3,604	3,694	3,929	4,078	4,432	4,493	4,832	4,509	4,197	4,127	3,913	3,650	3,815	4,063	3,936	3,841
県税	2,123	2,093	2,228	2,281	2,472	2,779	2,606	2,184	2,116	2,097	2,133	2,192	2,443	2,783	2,810	2,695
その他自主財源	1,481	1,601	1,701	1,797	1,960	1,714	2,226	2,326	2,081	2,030	1,780	1,457	1,372	1,280	1,126	1,145
依存財源	4,252	4,011	3,642	3,382	3,167	3,192	3,042	4,041	3,943	3,679	3,596	3,907	3,675	3,553	3,425	3,533
国庫支出金	1,289	1,147	1,007	865	709	696	843	1,359	999	909	856	1,120	894	935	856	838
地方交付税	1,797	1,628	1,557	1,471	1,400	1,251	1,260	1,308	1,411	1,419	1,375	1,323	1,326	1,236	1,267	1,150
県債	1,115	1,157	941	772	664	678	856	1,202	1,237	1,047	1,066	1,113	1,045	1,004	978	1,188
(臨財債)	221	466	332	255	229	207	252	510	803	637	640	665	607	457	384	460
(その他)	894	691	609	517	435	471	604	692	434	410	426	448	438	547	594	728
その他依存財源	51	79	138	274	393	566	83	173	296	304	299	350	409	377	324	357

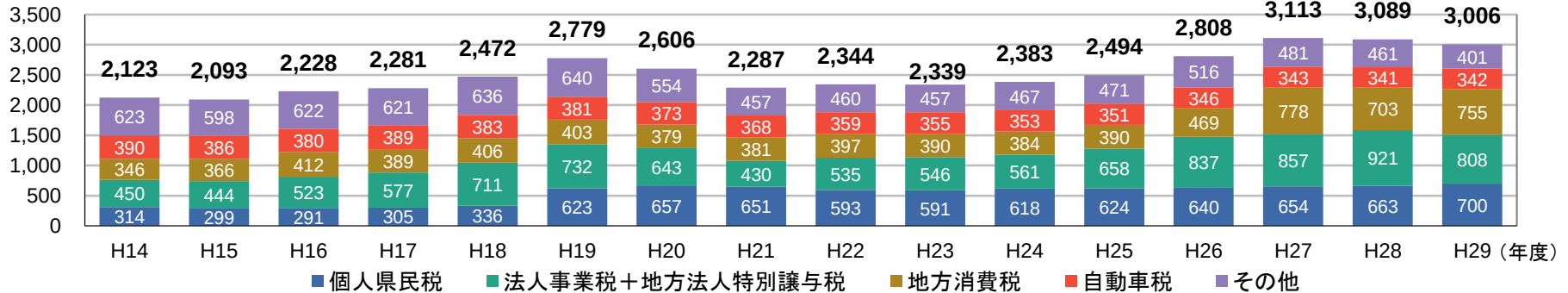
※県税のうち、地方消費税は清算後の額
 ※H28年度まで決算ベース、H29年度は当初予算ベース



県税決算の推移(普通会計)

- 主な税目は、個人県民税、法人事業税、地方消費税、自動車税など
- 法人事業税が景気の影響を受けることが、主な増減要因

(億円)



歳入決算額(億円)	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
県民税	475	437	455	466	520	820	811	759	719	716	747	776	851	835	816	804
個人	314	299	291	305	336	623	657	651	593	591	618	624	640	654	663	700
法人	104	100	115	117	140	146	123	81	100	103	107	101	157	129	126	99
利子割	56	37	50	44	44	51	32	27	26	23	22	52	54	52	27	5
事業税	471	464	543	597	731	752	662	345	323	319	326	372	489	546	662	515
個人	21	19	20	20	20	20	20	18	16	15	15	16	17	19	19	18
法人	450	444	523	577	711	732	643	327	307	304	311	356	472	527	643	497
地方消費税	346	366	412	389	406	403	379	381	397	390	384	390	469	778	703	755
不動産取得税	77	71	64	73	70	74	70	58	48	50	47	51	60	50	57	52
自動車取得税	84	94	92	91	92	85	73	46	38	32	42	37	17	27	29	35
軽油引取税	215	211	218	214	208	201	175	154	175	172	172	174	172	167	166	156
自動車税	390	386	380	389	383	381	373	368	359	355	353	351	346	343	341	342
その他	65	64	64	62	62	63	63	73	57	63	62	41	39	37	36	36
合 計 (A)	2,123	2,093	2,228	2,281	2,472	2,779	2,606	2,184	2,116	2,097	2,133	2,192	2,443	2,783	2,810	2,695
地方法人特別譲与税(B)	—	—	—	—	—	—	—	103	228	242	250	302	365	330	278	311
総合計 (A) + (B)	2,123	2,093	2,228	2,281	2,472	2,779	2,606	2,287	2,344	2,339	2,383	2,494	2,808	3,113	3,089	3,006
(再掲)																
法人事業税+地方法人特別譲与税	450	444	523	577	711	732	643	430	535	546	561	658	837	857	921	808

※地方消費税は清算後の額

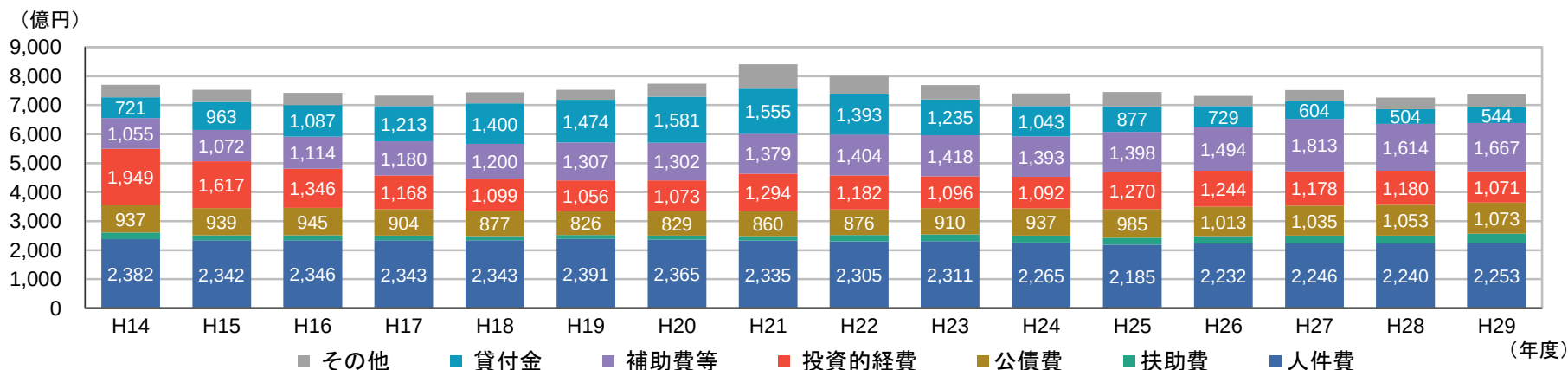
※H28年度まで決算ベース、H29は当初予算ベース





普通会計決算(歳出・性質別)の推移

- 義務的経費は、これまでのピークであったH13年度決算(3,589億円)と比較し、H29当初予算では56億円増加(うち人件費は、175億円縮減。扶助費は84億円増加。公債費は、147億円増加)
- 投資的経費は、ピーク時のH7年度決算(2,788億円)と比較し、H29当初予算では約4割となる1,071億円に縮減



歳出決算額(億円)	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
歳出総額	7,696	7,533	7,426	7,332	7,441	7,532	7,737	8,403	8,004	7,687	7,400	7,451	7,319	7,519	7,258	7,374
義務的経費	3,546	3,452	3,458	3,407	3,366	3,348	3,332	3,341	3,397	3,448	3,438	3,410	3,494	3,539	3,561	3,645
人件費	2,382	2,342	2,346	2,343	2,343	2,391	2,365	2,335	2,305	2,311	2,265	2,185	2,232	2,246	2,240	2,253
(うち職員給)	1,778	1,742	1,750	1,762	1,763	1,764	1,759	1,707	1,663	1,648	1,635	1,570	1,633	1,632	1,626	1,621
扶助費	228	171	167	160	145	130	138	146	217	227	236	240	249	258	268	319
公債費	937	939	945	904	877	826	829	860	876	910	937	985	1,013	1,035	1,053	1,073
投資的経費	1,949	1,617	1,346	1,168	1,099	1,056	1,073	1,294	1,182	1,096	1,092	1,270	1,244	1,178	1,180	1,071
普通建設事業	1,870	1,592	1,340	1,161	1,093	1,027	1,045	1,285	1,180	1,084	1,077	1,263	1,231	1,168	1,171	1,034
災害復旧事業	79	25	5	7	6	29	28	10	2	12	15	7	12	10	9	37
補助費等	1,055	1,072	1,114	1,180	1,200	1,307	1,302	1,379	1,404	1,418	1,393	1,398	1,494	1,813	1,614	1,667
貸付金	721	963	1,087	1,213	1,400	1,474	1,581	1,555	1,393	1,235	1,043	877	729	604	504	544
その他	425	429	422	364	376	347	449	833	627	489	434	496	358	385	399	447

※H28年度まで決算ベース、H29年度は当初予算ベース



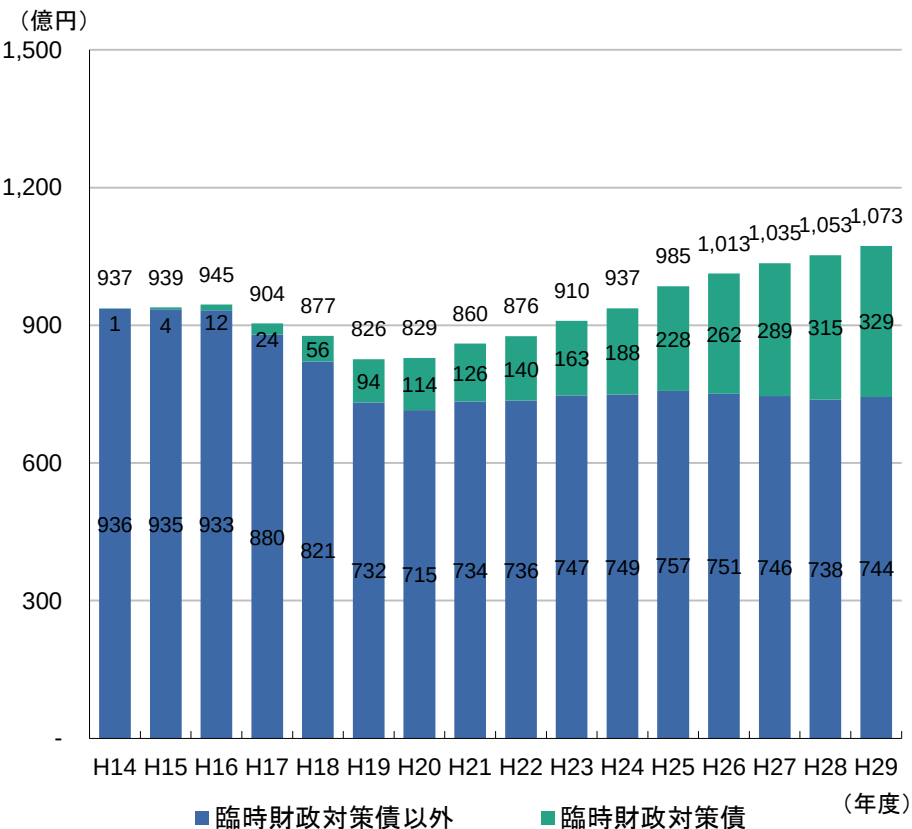
公債費及び投資的経費の推移

公債費

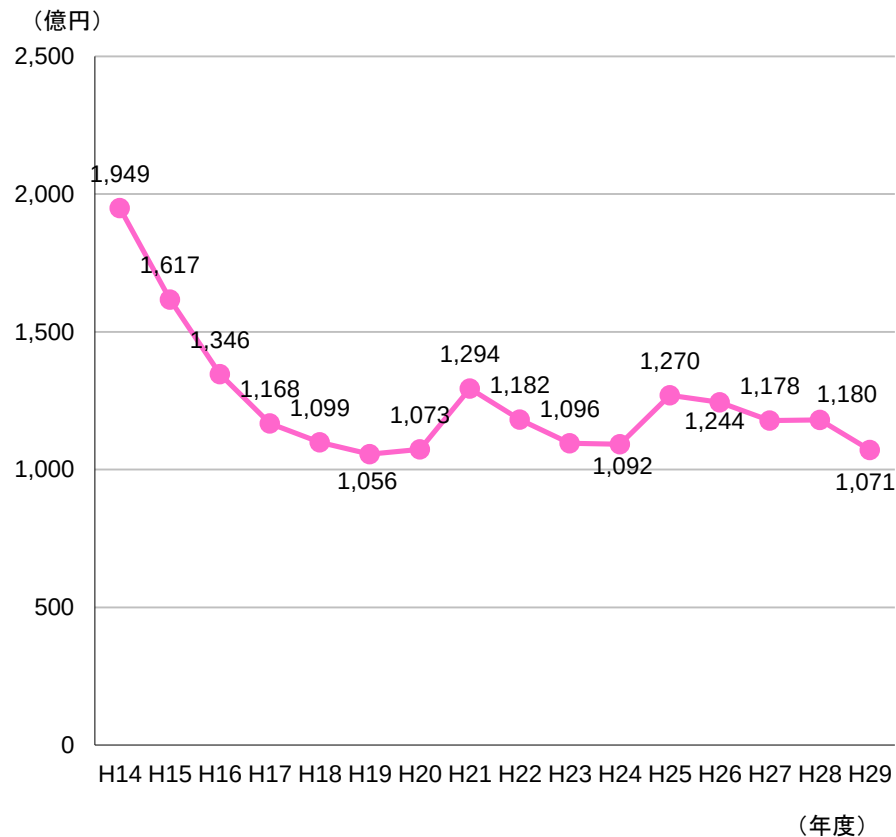
- 臨時財政対策債の償還費が増加する中、超長期債の新規発行によって償還年限を多様化するなど、戦略的な公債管理を行い、公債費の抑制に向けた取組を実施

投資的経費

- 公共事業等の投資的経費は大幅に減少



※H28年度まで決算ベース、H29年度は当初予算ベース





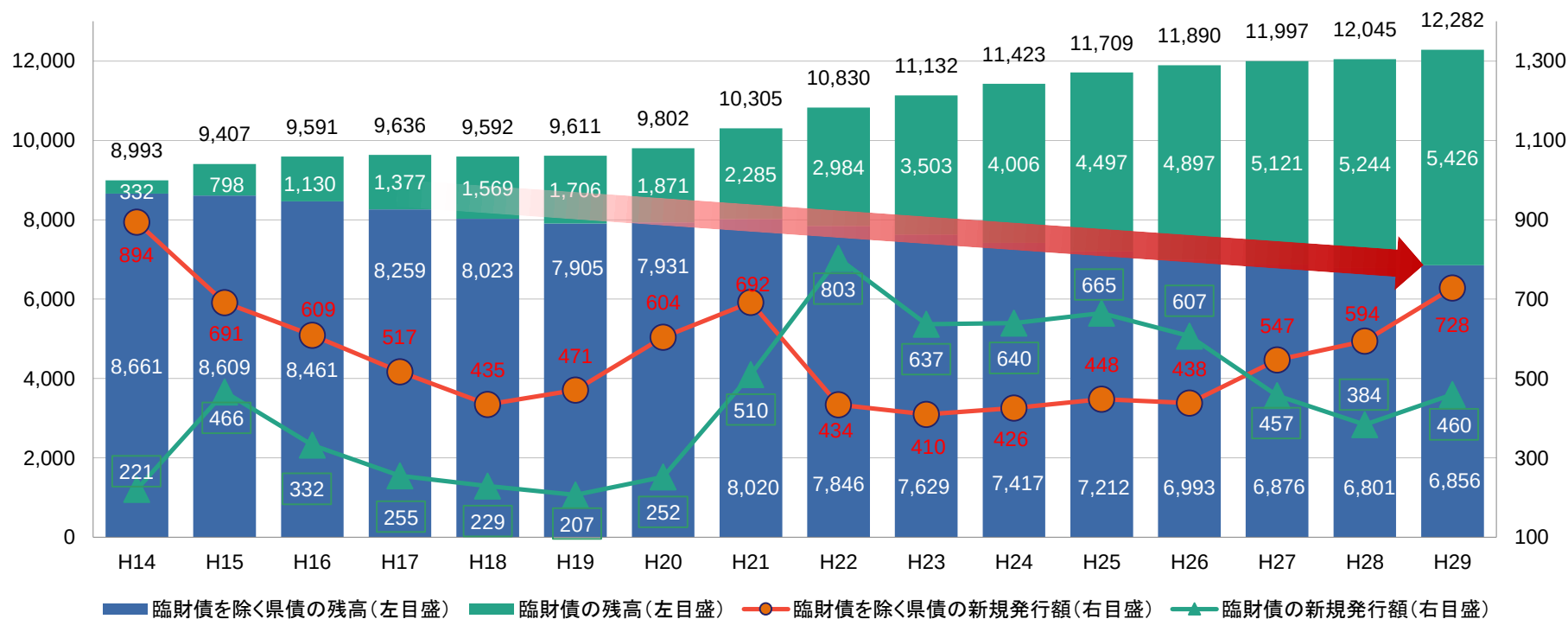
県債新規発行額と残高の推移

- 実質的な地方交付税である臨時財政対策債の発行により、県債残高は増加
- 臨時財政対策債を除く県債残高は、H14年度をピークに減少。（H20年度～21年度は、景気低迷に伴う県税の減少に対応して減収補てん債を発行した影響により、残高が増加、）。H22年度以降は再び減少傾向
- 臨時財政対策債を除く県債の新規発行額は、H10年度1,254億円をピークに抑制（H29年度は減収補てん債156億円の発行あり）

普通会計ベース

残高(億円)

発行額(億円)



※H28年度まで決算ベース、H29年度は当初予算ベース



行政改革の取り組み

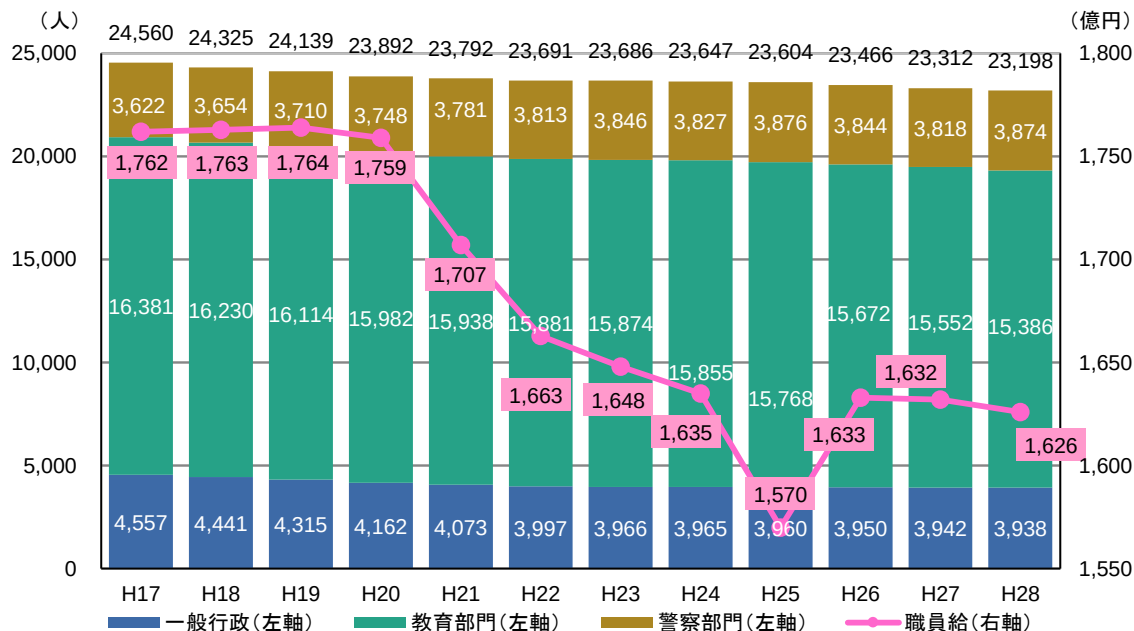
- 人口減少と少子化・高齢化が進む社会において、新たな行政課題への的確な対応を図るため、「群馬県行政改革大綱」(H26～H28年度)に基づき改革を推進(H28年度の計画実施率 87.0%)
- 平成29年3月に「群馬県行政改革大綱～群馬の未来創生を支える県政改革の推進～」(H29～H31年度)を策定し、引き続き、改革を推進。

群馬県の人口千人当たりの職員数

一般行政部門職員 2.01人(少ない方から数えて全国2位)

※東京都及び政令指定都市のある15道府県を除く(平成28年4月1日現在)

定員削減実績と職員給の推移(普通会計)



「行政改革大綱(H26～H28)」の主な成果

- 適正な定員管理
 - 一般行政部門 ▲22人
 - 教育部門 ▲382人
- 自主財源収入確保
 - 県有施設命名権売却、自動販売機設置収入等
 - 収入確保額 19.4億円
- 未利用財産の売却
 - 売却額 2.4億円
- 収入未済額圧縮
 - 圧縮額 23.5億円(県税+税外収入)
- 内部管理事務の効率化
 - 入れでの使用電力調達電気料金4.7億円削減

Section 3.

主な財政指標の状況

- 財政健全化法に基づく各指標は、財政の健全性において全国上位を維持
- 実質公債費比率と将来負担比率は共に、良好な水準を維持しており、現在及び将来に対する財政健全度は、市場公募発行団体(都道府県)中でも上位の位置付け



[吹割の滝]

片品川の上流、沼田市の老神温泉から4kmほど離れたところにある滝。幅30m、高さ7m、東洋のナイアガラと呼ばれ、大自然の不思議を満喫できます。国指定天然記念物です。





財政健全化法に基づく財政指標の推移

- 各指標ともに、財政の健全性において全国上位を維持
- 早期健全化基準を大幅に下回る値となっており、今後も適切な財政運営に努め、健全な財政状況を維持

各指標の算定結果

	H26年度	H27年度	H28年度	早期健全化基準
I. 実質赤字比率	該当なし (黒字1.09%)	該当なし (黒字0.97%)	該当なし (黒字0.94%)	3.75%
II. 連結実質赤字比率	該当なし (黒字15.30%)	該当なし (黒字16.89%)	該当なし (黒字17.41%)	8.75%
III. 実質公債費比率	12.2%	12.1%	11.7%	25%
全国順位	第9位	第14位	第17位	
全国平均	13.1%	12.7%	11.9%	
IV. 将来負担比率	162.8%	155.2%	160.2%	400%
全国順位	第12位	第12位	第13位	
全国平均	187.0%	175.6%	173.4%	

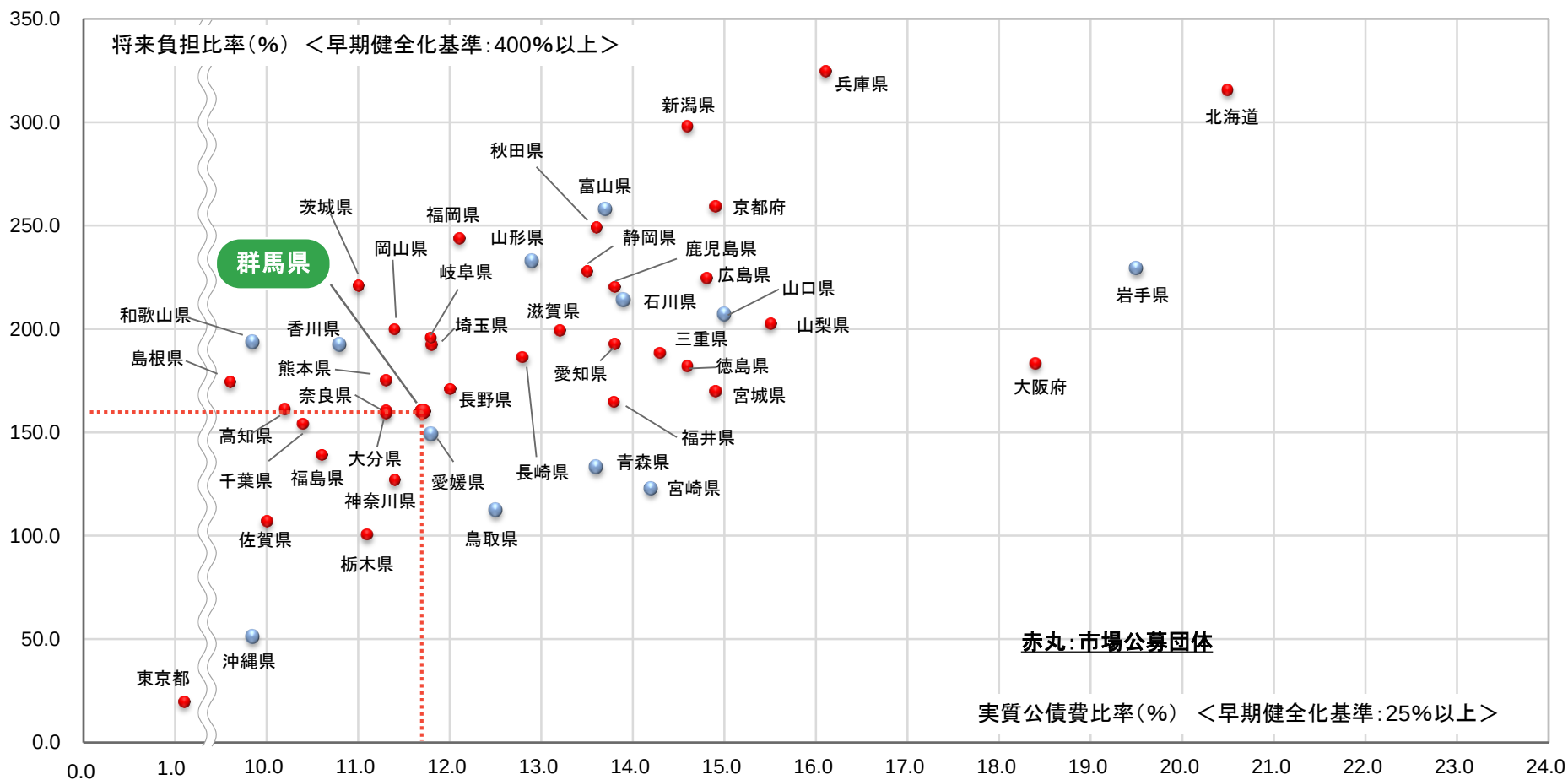
将来負担額の算定結果

項 目	金額 (億円)	算定内容
①地方債の現在高	12,479	満期一括償還分を含む地方債の残高
②債務負担行為に基づく支出予定額	93	土地改良事業負担金等
③公営企業の企業債償還への負担見込	225	流域下水道等
④組合等の借入償還に係る負担見込額	該当なし	
⑤退職手当の支給予定額	2,090	H28年度末に全職員が退職した場合の支給予定額
⑥設立法人の負債等に係る負担見込額	11	
群馬県住宅供給公社	2	
群馬県信用保証協会	9	
A 将来負担額計(①～⑥の計)	14,899	
B 充当可能基金	607	減債基金、財調基金等
C 充当可能特定財源	164	公営住宅使用料等
D 交付税算入見込額	8,097	
分子 A－(B＋C＋D)	6,030	



将来負担比率と実質公債費比率(平成28年度決算)

- 実質公債費比率と将来負担比率は共に、良好な水準を維持
- 現在及び将来に対する財政健全度は、市場公募発行団体(都道府県)中でも上位の位置付け

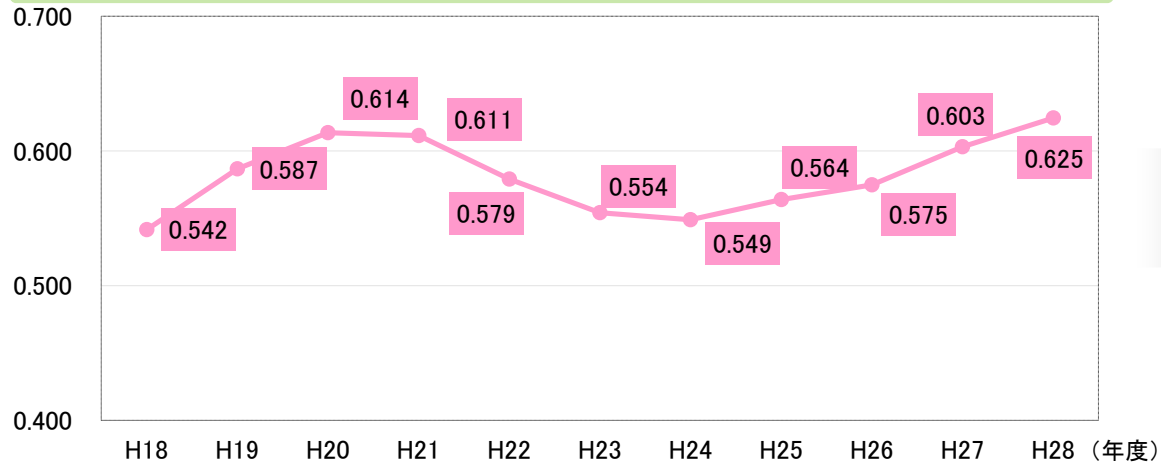




財政指標の推移

- 各種財政指標は、堅調に推移

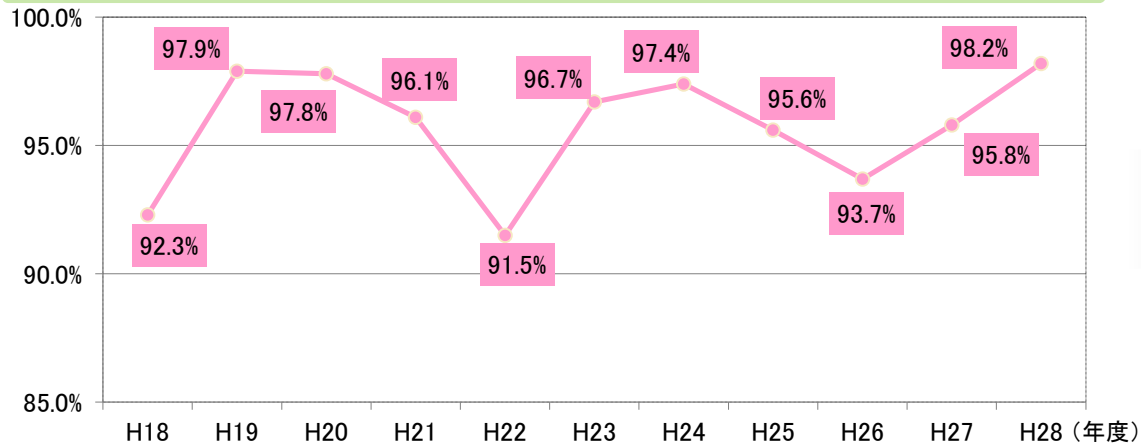
財政力指数



財政力指数
0.625

全国平均 集計中(H28 0.505)

経常収支比率



経常収支比率
98.2%

全国平均 集計中(H28 94.3%)

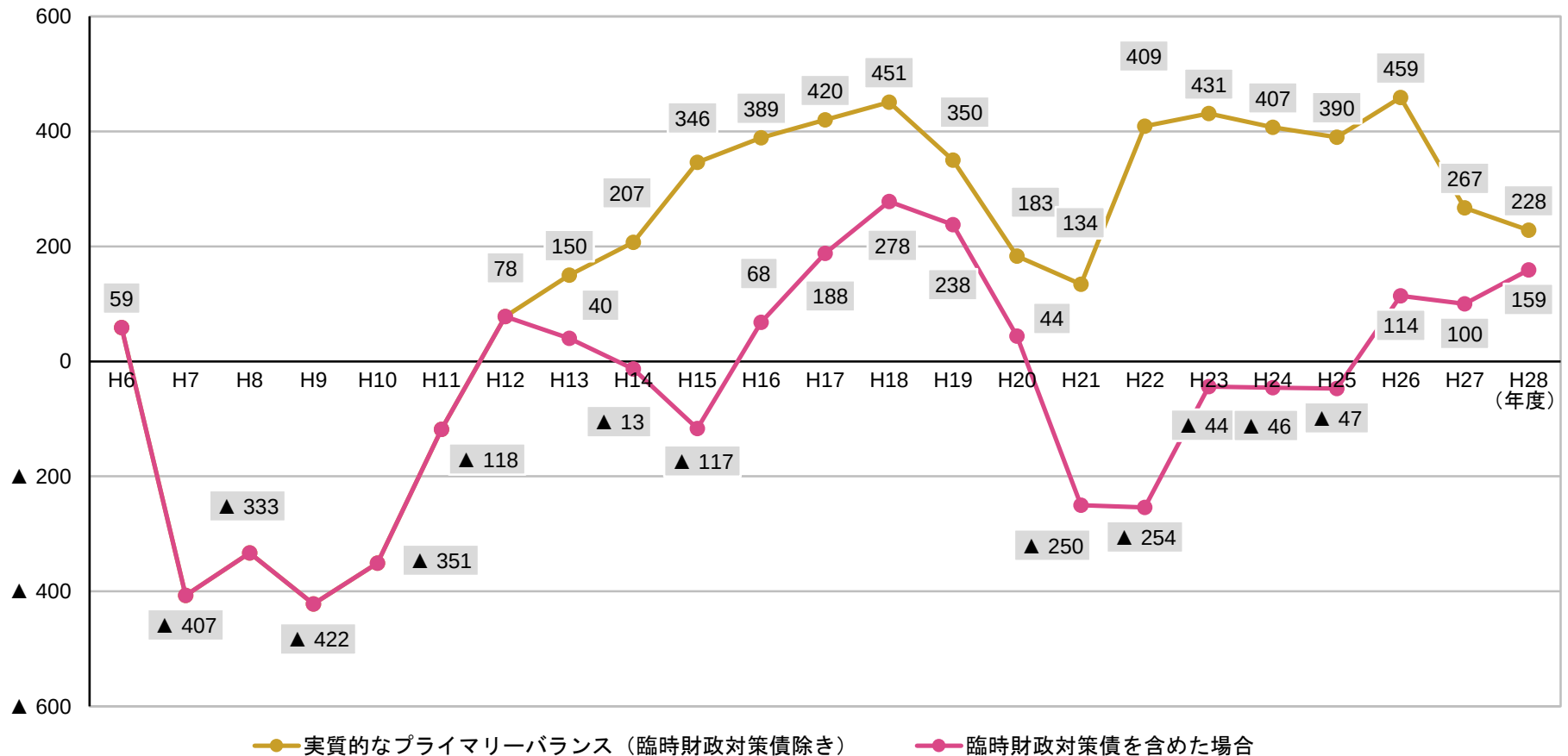


プライマリーバランスの推移(決算ベース)

- 実質的なプライマリーバランス(臨時財政対策債除き)は決算ベースで17年連続して黒字を維持
- 引き続き将来世代に対する負担に配慮した財政運営を実施

一般会計ベース

(億円)



Section 4.

公営企業・地方公社等について

- 平成28年度決算の公営企業会計全体の純損益は、3,165百万円の黒字
- すべての公営企業会計で資金不足はなく、財政健全化法に基づく経営健全化基準値（▲20%）をクリア
- 地方三公社（住宅供給公社、土地開発公社、道路公社）のうち「群馬県住宅供給公社」のみ存在。住宅供給公社の主な業務は、県営住宅管理業務であり、安定した経営



[ぐんま県境稜線トレイル]

群馬と新潟・長野の県境に位置し、稜線の長さでは国内最長（約100km）のロングトレイルとなり、新たな観光誘客の目玉として期待されています。





公営企業会計の決算状況

- 全体のH28年度決算では純利益3,165百万円を計上
- 全ての会計で資金不足はなく、財政健全化法に基づく経営健全化基準値(▲20%)をクリア
- 駐車場事業は、経常損失を計上しているが、地元市との協定により収支均衡
- 病院事業は、経営改善に努めた結果、純損失281百万円となった。引き続き県立病院改革プランに基づき、経営改善に取り組む

(百万円)

区分		電気	工業用水道	水道	団地造成	駐車場	施設管理	病院	合計
損益計算書	営業収益(A)	6,547	1,665	6,386	7,231	107	867	21,116	44,923
	営業費用(B)	5,363	1,478	4,220	5,917	151	600	27,131	44,864
	営業損益(C=A-B)	1,184	187	2,166	1,314	▲ 44	267	▲ 5,014	60
	営業外収益(D)	164	324	514	12	44	9	5,431	6,498
	営業外費用(E)	90	184	465	19	4	1	803	1,566
	経常損益(F=C+D-E)	1,259	327	2,215	1,308	▲ 4	275	▲ 387	4,993
	特別利益(G)	3	603	69	0	4	0	137	816
	特別損失(H)	0	2,608	5	0	0	0	31	2,644
純損益(I=F+G-H)		1,262	▲1,678	2,279	1,308	0	275	▲ 281	3,165
貸借対照表	資産の部	69,536	20,227	84,052	30,977	2,572	8,975	40,301	256,640
	固定資産	36,290	19,426	66,990	6,226	2,505	8,107	29,641	169,185
	流動資産	33,246	801	17,062	24,751	67	869	10,660	87,456
	負債の部	7,845	13,473	33,854	4,225	827	1,980	36,162	98,366
	固定負債	4,930	8,225	17,688	2,450	39	1,759	24,129	59,220
	流動負債	1,405	966	2,078	1,772	186	217	7,121	13,745
	繰延収益	1,510	4,282	14,088	2	602	3	4,913	25,400
	資本の部	61,691	6,754	50,197	26,753	1,746	6,995	4,139	158,275
	資本金等	55,142	3,816	38,856	24,959	0	5,349	10,434	138,556
剰余金		6,549	2,938	11,341	1,794	1,746	1,646	▲ 6,295	19,719
財政健全化法上の資金不足額(資金収支)		32,203	614	16,822	14,707	20	798	7,037	72,201



地方三公社の決算状況（住宅供給公社）

- 本県では、地方三公社（住宅供給公社、土地開発公社、道路公社）のうち「群馬県住宅供給公社」のみ存在（土地開発公社は平成21年8月末で解散、道路公社はもともと設置していない）
- 群馬県住宅供給公社の主な業務は、県営住宅管理業務（維持管理、家賃収納業務を県から受託）であり、安定した経営を行っている

貸借対照表

（百万円）

区分		H26年度	H27年度	H28年度
資産	流動資産	2,038	1,552	1,751
	固定資産	7,208	7,059	6,791
	繰延資産	—	—	—
	資産合計	9,246	8,611	8,542
負債	流動負債	2,512	1,930	1,939
	固定負債	3,414	3,325	3,182
	特別法上の引当金等	—	—	—
	負債合計	5,926	5,255	5,121
資本	資本金	40	40	40
	剰余金	2,484	2,502	2,517
	法定準備金	796	814	864
	資本合計	3,320	3,356	3,421
負債・資本合計		9,246	8,611	8,542

損益計算書

（百万円）

区分		H26年度	H27年度	H28年度
経常損益	営業収益 (a)	3,730	2,849	2,920
	営業費用 (b)	3,548	2,741	2,775
	一般管理費 (c)	79	97	87
	営業利益 (d=a-b-c)	103	12	58
	営業外収益 (e)	66	66	52
	営業外費用 (f)	138	57	58
	経常利益 (g=d+e-f)	31	21	52
特別損益	特別利益 (h)	29	16	13
	特別損失 (i)	—	—	—
当期利益 (j=g+h-i)		60	37	65



出資法人の状況

- 県が25%以上出資する公社・事業団等については、解散を含め、そのあり方の見直し等を行った結果、平成20年4月1日現在34団体であったものが、平成29年4月1日現在23団体に減少

主な法人の経営状況(出資金・出えん金が5億円以上など)

法人名	県出資等 (千円)		当期損益 (千円)		純資産又は 正味財産 (千円)
	県出資額	比率	H27年度	H28年度	
(公財)群馬県産業支援機構	613,050	80.3%	▲900	▲319,335	1,069,393
(公財)群馬県観光物産国際協会	864,000	88.7%	▲536	▲7,846	1,188,566
(公財)群馬県蚕糸振興協会	662,500	53.9%	▲4,407	▲9,443	1,244,253
(一財)群馬県森林・緑整備基金	580,000	100.0%	2,996	20,895	1,587,527
(公財)尾瀬保護財団	545,329	35.1%	▲11,136	4,363	1,664,598
(公財)群馬県暴力追放運動推進センター	512,275	82.1%	▲822	▲1,142	654,326
(公財)群馬県スポーツ協会	502,700	68.7%	5,854	3,506	1,097,236

Section 5.

市場公募債発行計画



ググッとぐんま観光キャンペーンポスター

- おっきりこみ(素朴美味)
- 蒸気機関車(鉄道勇姿)
- 富岡製糸場(世界遺産)
- 26のスノーリゾート(白雪讃歌)
- 105の温泉地(温泉王国)





平成29年度市場公募債発行計画

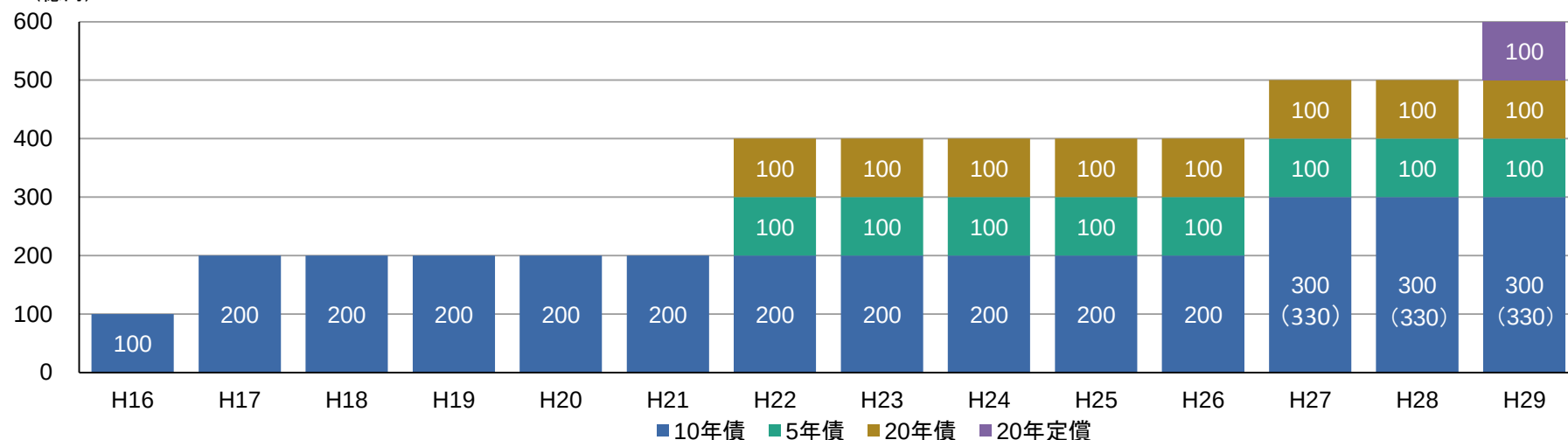
平成29年度市場公募債発行計画

(億円)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5年債								100					100
10年債					130			200					300
20年債			100										100
20年定償			100										100
合計			200		130			300					600

市場公募債発行額の推移

(億円)





お問い合わせ先

本件に関するお問い合わせ先

群馬県総務部財政課県債係

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1

TEL	027-226-2096
FAX	027-224-9123
e-mail	marketbond@pref.gunma.lg.jp
HPアドレス	http://www.pref.gunma.jp/

- 本資料は投資家向けに情報提供するものであり、投資に関する売買等の取引を提案、勧誘、助言するものではありません。
- 本資料に掲載している情報は、修正される場合があります。
- 本資料内のデータは、信頼できるとされる各種データに基づき作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。